

# ごろまるだより 2024 春号

ごろまるだより 2024 春号

季刊4回発行 2024年4月30日発行 通巻131号 発行所/株式会社日本医療企画 中部支社 TEL0568-2095451 編集/発行人/社会医療法人 志聖会 総合犬山中央病院 TEL484-8511 愛知県犬山市大字五郎丸字ニタ子塚6 TEL0568-628111



Topics

ごろまる医療のチカラ  
各診療科や地域と連携を図りながら、  
子どもたちの体と心の健康をサポートします  
小児科 部長 川口 敬以子

Topics

小児科の専門外来について  
「予防接種」「小児アレルギー」「発達障害」

- 地域連携支援センターからのお知らせ
  - ・犬山中央居宅介護支援事業所について
  - ・当院ではレスパイト入院を受け入れています
- 病児保育施設「みどりの園」スタート!
- 健康管理センターからのお知らせ
  - ・住民健診の予約受付を開始いたします
- 第17回ごろまるだより表紙写真コンテスト審査結果発表
- 新任着任医師のご紹介
- 車椅子を寄贈していただきました
- 出前講座「低栄養にならないためのじょうずな食べ方」を開催しました

## 新任着任医師のご紹介 2024年4月1日着任

■ 脳神経外科  
**大鷲 悦子**  
(おおわし・えつこ)  
日本脳神経外科学会会員

message

初めまして。4月1日より勤務させていただきます大鷲と申します。微力ではありますが、地域の皆さんの健康維持にお力添えができればと思っております。若輩者ではございますが、宜しくお願い申し上げます。



■ 泌尿器科  
**松山 奈有佳**  
(まつやま・なゆか)  
日本泌尿器科学会  
泌尿器科専門医  
緩和ケア研修会修了

message

初めまして、松山奈有佳と申します。東部医療センター、名古屋市立大学病院で泌尿器科医として研鑽を積んでまいりました。泌尿器科は、まだまだ女性医師が少なく、抵抗を感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、誠心誠意努めたいと思っております。



## 愛知県宅地建物取引業協会 北尾張支部様より 車椅子を寄贈していただきました

愛知県宅地建物取引業協会北尾張支部様より、当院へ車椅子5台を寄贈していただきました。2024年2月21日の寄贈式では、北尾張支部長 斉木良二様より齊藤雅也院長へ目録が渡されました。関係者の皆さまのご厚意に感謝申し上げます。寄贈いただいた車椅子は、院内で患者さんの移動などに利用させていただいております。



▲右から：北尾張支部長 斉木 様、齋藤院長、加藤事務局長

## 出前講座 「低栄養にならないためのじょうずな食べ方」

講師：山田見矢子（管理栄養士） 主催：犬山市老人クラブ 城東地区連合会 様

総合犬山中央病院では、当院スタッフが講師として近隣のイベントにお伺いする「出前講座」を行っております。2024年3月16日、犬山市老人クラブ 城東地区連合会さま主催にて、当院の管理栄養士・山田見矢子が「低栄養にならないためのじょうずな食べ方」をテーマに講演を行いました。低栄養が健康に及ぼす影響や、毎日の食事や生活全般において気をつけるべきことなどについてお話いたしました。



## 総合犬山中央病院 理念 地域の人々が安心して暮らせる心の支えとなる病院を目指します

- 救急は24時間365日受け付けています。
- 当院は敷地内全面禁煙です。(屋内屋外含め全て禁煙)

社会医療法人 志聖会  
**総合犬山中央病院**  
〒484-8511 愛知県犬山市大字五郎丸字ニタ子塚6  
TEL.0568-62-8111  
<https://www.inuyamachuohospital.or.jp>



## 総合犬山中央病院 小児科

# 各診療科や地域と連携を図りながら、 子どもたちの体と心の健康をサポートします

小児科 部長

## 川口 敬以子



総合犬山中央病院小児科では、小児科一般診療を中心に、子どもの病気を幅広く外来で診ています。重症の場合などは入院での治療を行い、地域の中でお子さんの健康を守る役割を果たしています。身体の病気だけでなく、子どもの発達や心の問題などについても詳しい川口敬以子先生に、お話を伺いました。

身体の病気や発達、  
心の問題までお子さんを  
トータルに診療します

— 小児科の特徴や対応疾患などを教えてください。

川口 小児科では、赤ちゃんから15歳までの年齢の患者さんを診ています。対応疾患は肺炎や扁桃腺、気管支喘息、食物アレルギーやアレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎などです。子ども特有の感染症に罹って受診される方も多いですね。最近では、多動症や自閉症傾向など発達障害的な問題でお悩みの患者さんも増えてきています。年齢的に学校に通っている患者さんが多いので、勉強への取り組みが困難であったり、人間関係の問題を抱えていたりなど、身体の病気だけではなく発達や心の問題にも関わっています。

重症の場合や、食べたり飲んだり眠ったりすることがうまくできなくなると、入院での治療を行います。退院後には、治療の続きとして外来でしっかりと診ていきます。気管支喘息など基礎疾患が

あって肺炎になったりした場合、気管支喘息の長期管理を外来で続けていきますね。地域の中で入院とその後治療が続けられるのは、お子さん本人も保護者の方も、負担が少なく安心していただけたらと思っています。

### 専門の外来でより深くケア 他科や地域とも連携

— 小児科の専門外来について教えてください。

川口 小児科ではさまざまな専門外来を設けています。予防接種の外来では、生後2か月から予防接種が始まりますので、接種のスケジュールについてご相談いただければと思います。最近では子宮頸がんの予防のHPVワクチン

も、積極的勧奨が再開されましたのでおすすめています。

小児アレルギーの外来では、気管支喘息やアレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなどに対応しています。喘息については、飲み薬や吸入のお薬を出したり、呼吸機能の検査をしたりしています。アレルギー性鼻炎では、舌下免疫療法も行っています。舌の下に1分程度お薬を含んでから飲み込むことで、アレルギーを起す原因となる物質を少しずつ取り入れて徐々に体を慣らしてアレルギー症状を和らげていく治療法です。舌下免疫療法は3〜5年毎日続ける必要がありますが、長期間の効果が期待できます。

発達障害の外来では、まずは問診票を書いていただき、お話を伺うことから始めます。長期的に診ていきますので、日常生活の中で苦手なことに対応するために、どんな工夫ができるかを一緒に考えます。例えば時計を使って「針がここまで進んだら、いったん休もうね」とすることでスムーズに勉強に取り組みたりなどですね。あ

とはお薬が必要な方には、集中しやすくするようなお薬や、感情の高ぶりをコントロールするようなお薬を出すこともあります。

### — 他科との連携は？

川口 皮膚症状が重症化した場合などは、皮膚科の先生に塗り薬を選んでいただいたりしています。喘息も皮膚疾患もあるという患者さんも多いので、飲み薬は小児科で出して、塗り薬は症状が重い場合は皮膚科の先生にお願いしています。

鼻づまりが重症化すると、耳鼻いんこう科と連携をとって治療していきます。咳や痒み関連のお薬は小児科で出して、鼻づまりや副鼻腔炎を繰り返したりする場合は、耳鼻いんこう科の先生にお薬をお願いしています。

### — 地域との連携は？

川口 地域の開業医の先生からご紹介いただくこともあります。発達障害の患者さんの場合、知的遅れがあつて通常級でやっていくのは難しい場合、児童相談所に検査をお願いします。児童デザイナーなどの施設に通うお

## 子どもがかかりやすい感染症：5月頃から流行し7～8月にピークを迎える感染症

### ○ 手足口病

手のひら、足の裏、口の中などに発疹ができ、発熱するのが特徴。4歳くらいまでの幼児がかかりやすい感染症です。口の中の発疹のため食べ物や水分が取りにくくなるので、特に脱水症状には注意が必要です。



### ○ ヘルパンギーナ

突然高熱を出し、口の奥に水ぶくれや口内炎ができるのが特徴。手足口病と同じく、免疫のない4歳以下の幼児がかかりやすい感染症です。高熱が数日続くほか、喉の炎症や口内炎のせいで、水分、食事が取りにくくなるようです。



### ○ 咽頭結膜熱（プール熱）

急激な発熱、のどの奥などの痛み、目の充血や目やにが出るのが特徴。プールでの接触やタオルの共用による接触感染のほか、咳やくしゃみなどによる飛沫感染も主な感染経路のため、プールに限らず日常生活でも感染します。



# 小児科の専門外来について

当院小児科では、「予防接種」「小児アレルギー」「発達障害」の専門外来を設けています。午後の外来で、予約制にて診察しています。

## ■予防接種の専門外来

公費で受けられる予防接種は生後2カ月から始まります。どの予防接種もその前にご相談いただくと良いと思います。接種のスケジュールに合わせて、接種していく流れになります。子宮頸がんワクチンの接種※も受け付けています。

※小児科では中学生まで受付、高校生以上は婦人科での受付です。



## ■小児アレルギーの専門外来

気管支喘息、アレルギー性鼻炎、アレルギー性皮膚炎、食物アレルギー等の慢性疾患に対応しています。呼吸機能の検査の実施や、アレルギー性鼻炎では舌下免疫療法も取り入れています。食物アレルギーでは、皮膚にごく少量のアレルギー原因物質をつけて検査するプリックテストや、食物経口負荷試験などを行っています。

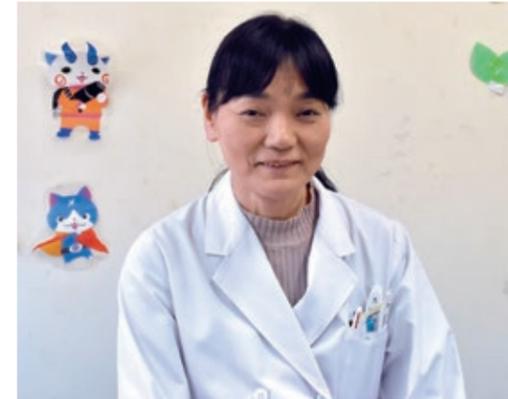
## ■発達障害の専門外来

まず、予約を取っていただき自宅で問診表を書いていただきます。診察の際に、その内容に沿って詳しくお話を伺い長期的に治療していきます。日常生活でのお困りごとの相談や、必要な場合はお薬を処方いたします。子どもの発育発達に対する小児科医の役割が重要視されるようになってきていますので、お子さんとお母さん方が安定した気持ちで自信を持って過ごしてゆくことが出来るように、努力しています。

# 小児科の専門外来担当医表（予約制）

		月	火	水	木	金	土
予防接種の専門外来	AM	-	大塚 受付・診察 (10:00～11:00)	-	大塚/川口 受付・診察 (10:00～11:00)	大塚 受付・診察 (10:00～11:00)	-
	PM	川口 受付・診察 (15:30～16:00)	大塚/川口 受付・診察 (14:00～16:00)	川口 受付・診察 (14:00～15:00)	大塚/川口 受付・診察 (14:00～16:00)	大塚/川口 受付・診察 (14:00～16:00)	-
小児アレルギーの専門外来		-	-	-	川口 受付 (13:30～16:00) 診察 (14:00～16:30)	-	-
発達障害の専門外来		川口 ①11:20	川口 ①10:00 ②11:20	川口 ①11:20	川口 ①11:20 ②15:00 ③16:20	-	-

※予約制となっております。TEL:0568-62-8111(代表)  
※上記の担当医表は2024年4月時点のものです。最新の担当医表は当院ホームページをご覧ください。



子さんの検査を当院で行う場合もあります。例えば、発達障害の患者さんがデイスサービスを利用される場合、知能検査の結果から、どういうところが得意で不得意かというところをデイスサービスの先生にみていただくことで、指導計画を立てる時に役立ててもらったりしています。

## 他科の医師やスタッフとも相談がしやすい環境です

——総合犬山中央病院の特徴や印象を教えてください。

川口 他科の先生やスタッフさんの顔が見える環境なので相談がしやすいですね。お腹の症状について消化器内科の先生に相談したり、耳鼻いんこう科の先生にレン

トゲン画像をみてもらったりして、協力しあっています。看護師さん達は、季節に合わせて小児科の診察室や受付に可愛い手作りのお飾りつけをしてくれま

## ——小児科の近年の傾向を教えてください。

川口 アレルギーの領域では、喘息やアトピー性皮膚炎の抗体製剤など新しい薬も出てきています。以前は、喘息の治療といえば飲み薬と吸入だけでしたが、注射薬を何週間おきに投与するといった治療が、小児に対しても一部認められるようになるなど、少しずつ治療の幅が広がっています。アトピー性皮膚炎の塗り薬でも、以前は保湿剤とステロイド剤

でしたが、今はステロイド剤ではない炎症を鎮めるお薬も使えるようになったので、治療が選べるようになってきたかなと思います。食物アレルギーでは、食物経口負荷試験といって、病院で医師の

## 子どもたちが楽しく過ごせるように

——小児科医を志した理由はなんですか？

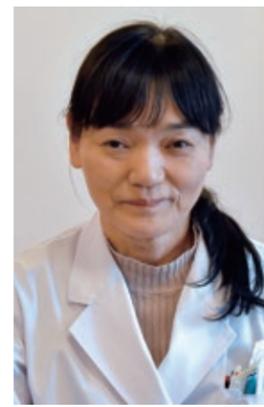
川口 最初は内科医志望でした。幅広い年齢の患者さんを診察して関わっていく中で、お子さんの病気が治って元気になっていく様子や、お子さんが元気になるとご家族がみんな一緒に元気になっていくところに惹かれて小児科医にな

管理の下、アレルギーが疑わしい食べ物を少しずつ食べて症状が出ないかどうかを調べるものがあります。食べられる量を見極めて、続けて摂取していくことで、だんだんと食べられる量が増えていたり、発疹などの症状が出なくなったりします。以前は、アレルギーがある場合はその食物を全く食べない(完全除去)という方針でしたが、現在は食べられる量が多のくらいなのを病院で見極めて少しずつ食べていくことで、思わしくない症状が出ないようにもっていく、という方向性になってきています。

りました。小児科では、お子さんとお母様との結びつきが大変強いと思いますので、お母様方に対するサポートも大切にしています。

## ——犬山の印象はいかがですか？

川口 犬山は城下町なので古風な雰囲気があって、私は好きですね。私の故郷と似ているところもあるのが懐かしい気持ちになれますし、人の気質とか雰囲気がとても合う感じがしています。犬山の地域のお子さん達が、楽しく遊んで、楽しく勉強などに取り組んで学んでいけるように、今後も努力していきたいと思っています。



かわぐち けいこ  
1983年秋田大学医学部卒業後、新潟大学医学部小児科学教室に入局。同大学大学院医歯学総合研究科卒業・医学博士。新潟で長く務めた後、2014年から総合犬山中央病院で勤務。大学院の研究で腎臓、大学病院の臨床で小児神経疾患、一般病院に移ってからはアレルギー疾患の研鑽を積み、日本小児科学会小児科専門医、日本腎臓学会腎臓専門医、日本小児神経学会小児神経専門医、日本アレルギー学会アレルギー専門医の4つの資格を取得。



## 健康管理センターからのお知らせ 住民健診のご案内

### 5月24日(金)より住民健診の予約受付を開始いたします

令和6年度の犬山市・扶桑町・大口町の住民健診の予約受付を開始いたします。お申込方法などは下記をご覧ください。

●受付開始：2024年5月24日(金)13:30より

●受付時間：平日(月～金)13:30～16:30 (土)9:00～12:00  
※土曜午後・日曜・祝日は受け付けておりません。

●申込方法：①お電話でご予約ください。 ※下記までお電話ください。  
〔TEL〕0568-62-8246(健康管理センター直通)  
0568-62-8111(代表)

②お電話の受付後、ご自宅に案内書・問診票等を郵送いたします。



お願い

- ✓ 37.0℃以上の熱や倦怠感・息苦しいなどの症状がある方は健診を控えて下さい。
- ✓ 医療機関併設のため、健診受診時にマスクの着用が必要となりますのでお願い致します。
- ✓ その他詳細はホームページをご覧ください。  
(健康管理センター) <https://www.inuyama-kenkou.com/>



## 第17回 ころまるだより表紙写真コンテスト 審査結果発表

この度もたくさんのご応募を頂きありがとうございました。ここに入賞作品2点を発表いたします。

募集テーマ：「祭り」



### 優秀賞(表紙採用)

撮影者：  
**熊沢 敏裕** 様(犬山市)

タイトル：  
「梅まつり」

コメント：  
満開の白梅、紅梅、  
ほのかに香る枝垂梅。  
とても素敵でした。



### 入選

撮影者：  
**土屋 恵理** 様(三重県)

タイトル：  
「おひなさま」

※今回は審査の結果、優秀賞1点、入選1点となりました。  
何卒ご了承のほどお願いいたします。

次回コンテストの  
ご案内

ころまるだより  
夏号表紙写真

夏号テーマ：「花火」 季節感にあふれる、皆さまの力作を  
お待ちしております。

締切：2024年5月31日(金)17:00まで

★夏号は2024年8月上旬発行予定です。

お問い合わせ：広報兼医師採用・サポート課(広報誌担当) TEL:0568-62-8111(代表)

詳しくは  
こちら



優秀賞・入選作品は大型写真にプリントし、当院1Fに展示いたします。また当院ホームページでもお知らせいたします。



## 地域連携支援センターからのお知らせ

### ●犬山中央居宅介護支援事業所について

犬山中央居宅介護支援事業所では、介護が必要となっても、住み慣れた地域で安心して自分らしく生活が続けられるよう、介護支援専門員(ケアマネージャー)がお手伝いいたします。在宅の要介護者さんが適切に介護サービスを利用できるように、ケアマネージャーがご本人やご家族と相談しながら一人おひとりの想いを受け止め、心を込めてケアプランを作成いたします。



**POINT!!** 当事業所は医療機関の中にあります。そのため、入退院支援看護師や医療相談員、ケアマネージャーが顔の見える距離で情報共有ができ密に連携していることが特徴です。退院後も安心して在宅生活が送れるよう、医療・介護の切れ目のない支援を目指しています。

【お問い合わせ】犬山中央居宅介護支援事業所 TEL.0568-63-3707

### ●当院ではレスパイト入院を受け入れています

#### レスパイト入院とは

在宅でも常に医療的管理が必要な療養生活を送っている患者さんが一時的に当院に入院していただくことで、ご家族などの介護者や患者さんご自身が休息を取れるようサポートを行なうサービスです。



#### レスパイト入院のメリット

介護者がホッと一息つくことで心も体もリフレッシュし、介護疲れや日々のストレスが軽減する効果を期待できます。

#### こんなときご利用ください

- 介護者が疲れたので少し休みたい
- 介護者の病気やケガのため一時的に介護が難しい
- 介護者が旅行に出かけたい
- 介護者が冠婚葬祭のため家を留守にする

…など

【お問い合わせ】地域連携支援センター TEL. 0568-62-8200(医療・福祉相談)

2024年  
4月より

## 病児保育施設「みどりの園」スタート!

犬山市  
委託事業



左：原欣伸市長、右：竹腰理事長  
(3月25日の施設見学会にて)

2024年4月より犬山市委託事業として病児保育施設「みどりの園」の運営を開始いたします。

病児保育事業とは、お子さんが病気のため集団保育ができない状態で、かつ保護者がお仕事などでご家庭で保育を行うことが困難な場合、病院や保育所などの専用スペースでお子さんを一時的に保育するという事業です。



▲詳しくはこちら  
犬山市サイト：「病児・病後児保育」ページ

※犬山市在住の方が対象です。